



広報

12

December 2011  
HONBETSU  
Public Relations  
NO. 998

# ほんべつ



いいひと いいまち いきいき ほんべつ

## 新たな観光

6

開町110年 姉妹提携20周年記念  
姉妹都市オーストラリアミッチエル市答礼訪問・町民ツアー

8

平成22年度版 わがマチ

### マイタウン 本別のたいでこる

14

高齢者日常生活圏域—トーズ調査

11月3日 文化奨励賞の授賞式が執り行われました

### 本別町文化祭

20

ほんべつ学びの日の集い  
いきいきほんべつ ふれあい祭り

夢風事業

いきいきほんべつ ふれあい祭り

国民年金コーナー

いきいきほんべつ ふれあい祭り

24

第1回本別町農産物加工施設管理運営検討委員会  
本別町発展のために

25

まちの行方 第1部  
シリーズ行政改革  
ハロー本別高等学校  
マイタウン  
みんなの健康・銀河ホットライン  
ご寄付ありがとうございます  
本のある暮らし・わたしたちのまち

34 33 32 27 26



### 日本伝統文化を披露

本別伝統文化継承会（戸田京子代表）で茶道・華道・詩吟を学んでいる子供たちが、11月3日の芸能発表会で日ごろの成果を披露しました。

# 観光たな

第2のふるさとを目指して

## 自然や農作業体験などを中心とした体験型観光の取り組み

平成17年4月のふるさと銀河線廃止後、銀河線沿線の池田、本別、足寄、陸別の観光業者と各町が広域的に連携し、銀河線に代わる地域振興策について協議を重ねてきました。

その中で、景勝地を見て回る観光から、十勝東北部の農業や自然などの地域資源を体験する、新たな観光振興に着目し、平成21年4月に4町が一体となつた「ちほく体験観光協会」を組織。

都市部に生活する人をターゲットに、都會ではできない地域資源を活用した体験型観光に取り組み、だれもが心休まるふるさとづくりを進めています。また、平成22年からは農家民泊を受け入れる会が活動をスタートさせ、今年4月に「本別こども民泊受入れの会」として発足。修学旅行生を中心に農業の素晴らしさを伝えています。



# 新たな観光



道の駅ステラ★ほんべつでの受入式

この会は、農家民泊や農業体験希望者を受け入れ、交流を図りながら農業の素晴らしさを伝えるとともに、地元農畜産物の消費拡大を推進すること目的に平成22年から活動に取り組み、今年3月町内農業者22軒で設立。今年度は、北海道グリーンツーリズムネットワーク十勝ブロックとちほく体験観光協会から紹介された、大阪府の高校生を中心とした修学旅行生約260人を受け入れました。

代表に就任した、井出壬午さんは（活込）に活動初年度の感想と今後の課題や目指すものについて伺いました。

## 本別こども民泊受入れの会

訪れた子供たちに野菜の収穫や薪割り、トラクター乗車など、都会ではできない体験をさせています。特に、星が輝く夜空の美しさと新鮮な食材を使った料理のおいしさに感動します。

### Q 学んでほしいこと

作物や家畜を間近に見て、その命をいただくことで自分たちが「生かされている」ことを実感してほしい。そして、「自分の命を大切にすること」を学んでほしいです。

### Q これから目指すもの

本別の自然を見て感じてもらいたい、もっとこの町の良さを知つてもらいたい。そして、「また本別に行きたい」というリピーターを増やし、それが将来定住につながつてほしい。



受け入れ先での1コマ



十勝東北部4町の様々な体験プランやプログラムが掲載されているガイドブック



平成21年9月には、第1弾となる兵庫県の修学旅行生約141人を受け入れ、うち44人が本別町を訪れました。今年度はすでに大阪や京都からの修学旅行生約260人が訪れるなど、同観光が定着しつつあると同時に、今年3月には平成22年から農家の会（井出壬午代表、22軒）として発足するなど、受け皿が強化されたことで今後の集客増加が期待されています。



修学旅行生による農作業体験

## 見る観光から 体験する観光へ

第2のふるさとを目指して

### ちほく体験観光協会

池田、本別、足寄、陸別

の十勝東北部4町とNPO法人自然体験学校で構成される組織で、平成21年4月から活動をスタート。主に、十勝東北部における体験観光メニューの調整や道外修学旅行生誘致などの宣伝活動を展開しています。また、受け入れが決まれば、宿泊予約や企画書・計画書の作成、旅行代理店との契約、精算などの現地での手配を一括して引き受けています。この組織は、平成17年度に十勝東北部の池田、本別、陸別が連携して地域振興を進めるために設立した「十勝東北部地域観光事業検討委員会」が母体となっています。

### 北海道グリーンツーリズムネットワーク

北海道の宝物である農業や農村景観の魅力を提供するために、農業者との交流や情報交換、情報発信に取り組んでいる組織。

## 見 る 観 光 か ら 体 験 す る 観 光 へ

この体験型観光の取り組みのねらいは、地域における経済の活性化と様々な体験や安心安全な食を通じ、本別のことを良く知つてもらうことです。

本別町民の温かさに触れ、普段見ることのできない自然や星空に感動した観光客が、本別を離れてまた帰つてくる。さら

にその魅力が人づてにどんどん広がる。そんなつながりを大切にしながら一人でも多くの人が、本別を第2のふるさとと思ってくれる観光を目指しています。



マイク・フィリップス氏宅の庭にて歓迎の写真

式典終了後の交流会での鏡開き

プロードフォードでの歓迎式典。  
コッペルミッチェル市長の歓迎の言葉

ワンドン森林火災記念公園でのコッペルミッチェル市長、砂原団長の記念植樹ならびに記念プレートの除幕式



## 開町110年 姉妹提携20周年記念

# 姉妹都市オーストラリアミッチェル市 答礼訪問・町民ツアーアイテム

## 新たな1ページ

開町110年と姉妹提携20周年を記念した、オーストラリアミッチェル市答礼訪問・町民ツアーアイテムが11月8日から14日の7日間、砂原勝副町長を団長に11人が参加し開催されました。一行は、ミッチェル市を訪問した際に盛大な歓迎を受けた他、文化交流やホームステイを通して、いっそう絆を強く確かなものにし、今後の国際交流に新たな1ページを加え無事帰郷しました。

11月8日から14日までの開町110年・姉妹提携20周年記念町民ツアーアイテムが11月8日に本別を出発。11月9日早朝にシドニーに到着し入国審査も無事通過して、国内便に乗り換えてメルボルンに行きました。メルボルンは快晴で、春というよりは夏の日差しが私たちを迎えてくれました。到着後、滞在日程、ホームステイなどの打ち合わせを行い、翌日11月10日に姉妹都市オーストラリアミッチェル市を訪問しました。歓迎式典会場へ行く前にワンドン森林火災記念公園（Wondong Memorial Park）に立ち寄りミッチェル市議、市職員が見守る中、コッペルミッチェル市長、砂原団長などが代表して記念植樹（ユーカリの木）ならびに記念プレートの除幕式を行いました。また、コッペル市長が「本別町民の皆様などから寄せられた義援金をこの記念公園建設に活用させて頂いた」と感謝の言葉を述べられました。

その後プロードフォードの式典会場に移動し、メルボルン領事館領事やホストファミリー、ミッチェル市民が同席する中で歓迎式典が行われました。コッペル市長とメルボルン領事館側嶋（そばしま）領事の歓迎のあいさつの後、砂原団長が本別町長からのメッセージを披露し、盛大な歓迎に対するお札を述べ、町からの記念品を贈呈しました。

また、本別町国際交流協会の棚原秀樹会長からはミッチェル・本別姉妹都市委員会のマイク・フィリップス委員長に記念品の贈呈などを行いました。式典終了後、歌や演奏、鏡開きなどお互いの文化交流を行いました。

大変有意義な時を過ごした後、団員達はそれぞれのホストファミリーへと向かいいました。その夜、ミッチェル・本別姉妹都市委員会主催の夕食会がパブで開催され、多くの友人たちが会いに来てくれました。懐かしい顔もそろい、大いにぎわいました。翌日の午前中はホストファミリーとの自由行動。正午にはキルモアにあるレストランに集合し、全員で昼食をとった後ホストファミリーやミッチェルの友人たちと別れを惜しみ、再会を約束してミッチェル市を後にしました。今回の訪問が両町の絆をさらに強くし、なお一層友情が深まつたことを全員が確信しました。姉妹提携20周年を機に新たな道を築く歴史的な場に立ち合えたことは訪問団員全員の誇りとするところです。

また、団員全員が健康で、無事に帰国することができたことも何よりでした。今後この経験を少しでも本町の国際交流の発展に役立たせていくべきだと思います。

訪問団一同

## 答礼訪問・町民ツアーアイテム

事務局	岡田清治・小泉英利
町民ツアーアイテム	伊藤光子・小泉優子
本別町国際交流協会	棚原秀樹（国際交流協会会長）
副団長	砂原勝（本別町副町長）
副団長	林武（本別町議会副議長）
本別町議会	棚原千佳子・朝日薰
本別町議会	北山信孝（総務課長）
本別町議会	今野民子（教育委員会主査）

## このように使われました！

平成22年度の各会計の決算状況がまとめました。

皆さんから納めていただいた大切な税金や国・道からのお金などが、どのように入ってきて（歳入）、どのように使われたか（歳出）、また、今の本別町には財産や預金、借入金がどれくらいあるのかを、表や豆グラフを使ってできるだけわかりやすくお知らせしたいと思います。

**総務費** 20億6,045万円  
1人当たり 25万907円  
町の企画や防災、造成、選挙、庁舎の維持管理、放送・通信の整備などに使われるお金です

**民生費** 10億1,631万円  
1人当たり 12万3,759円  
児童や高齢者福祉の推進、社会福祉充実のために使われるお金です

**公債費** 9億6,332万円  
1人当たり 11万7,306円  
事業を行うために借りたお金の返済に使われるお金です

**衛生費** 8億6,022万円  
1人当たり 10万4,752円  
保健事業やゴミ処理など、健康と衛生的な環境を維持するために使われるお金です

**土木費** 7億29万円  
1人当たり 8万5,277円  
道路の改良や維持、公営住宅の建設や維持などに使われるお金です

**教育費** 5億3,434万円  
1人当たり 6万5,068円  
小学校・中学校での教育や社会教育（学校教育以外の教育）などに使われるお金です

**農林水産業費** 2億9,251万円  
1人当たり 3万5,620円  
農業・林業の発展のために使われるお金で、農林道の整備、農業用施設・機械購入などに使われるお金です

**消防費** 2億3,933万円  
1人当たり 2万9,144円  
池北三町行政事務組合への負担金に使われるお金です

**商工費** 1億9,779万円  
1人当たり 2万4,086円  
商工業の発展・振興などに使われるお金です

**その他** 4,819万円  
1人当たり 5,868円  
議会の運営、勤労者対策、災害復旧などに使われるお金です

**職員費** 13億3,046万円  
1人当たり 16万2,014円  
職員の給料などに使われるお金です

## 一般会計 の決算状況

## 歳出

**総額**  
**82億4,321万円**

町民1人当たり 100万3,801円

**25.0%**

歳出

## 歳入

**総額**  
**84億3,562万円**

町民1人当たり 102万7,231円

**41.3%**

歳入

**24.8%**

歳入

**7.3%**

**1.9%**

歳入

**1.8%**

歳入

**11.6%**

歳入

**2.7%**

歳入

**2.4%**

歳入

**2.1%**

歳入

**1.9%**

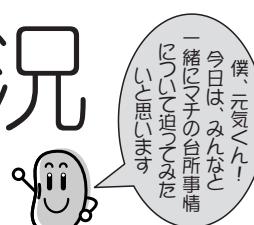
歳入

**0.7%**

歳入

依存財源：国や道の決定や割り当てに基づいて入ってくるお金のことです、地方交付税や国庫支出金・道支出去のほか、地方譲与税、各種交付金、また、地方債（町債）もこれに該当します。

自主財源：町税などの町に納めていただくお金のこと、他に分担金および負担金、使用料および手数料、寄付金、繰越金等があります。財政の自主性と安定性を確保する上では、自主財源の割合ができるだけ高いことが望ましいです。



豆のマチほんべつ  
だから  
〔豆さやグラフ〕

**自主財源**  
19億3,373万円  
22.9%

**寄付金および財産収入** 5,627万円  
1人当たり 6,852円  
町民の皆さんから頂いた寄付金や、財産運用（土地の貸し付けなど）によるお金などをまとめてみました

# 地方交付税

地方交付税は、国から交付される町の大きな収入源となっています

地方交付税は、法に基づき交付されるものです。うち普通交付税が、右のトラ豆グラフのとおり町の重要な収入になっています。

- さて、普通交付税がどのように計算されるかというと、
- 全国的に標準となる町のモデルを作る
- このモデルの必要な経費を計算する
- 本町分は、このモデルの経費を補正して計算する
- でた経費総額から本町の収入を差し引く

このように計算したものが、町の普通交付税収入です。

**地方交付税には2種類あります**

地方交付税には、普通交付税と、特別交付税があります。

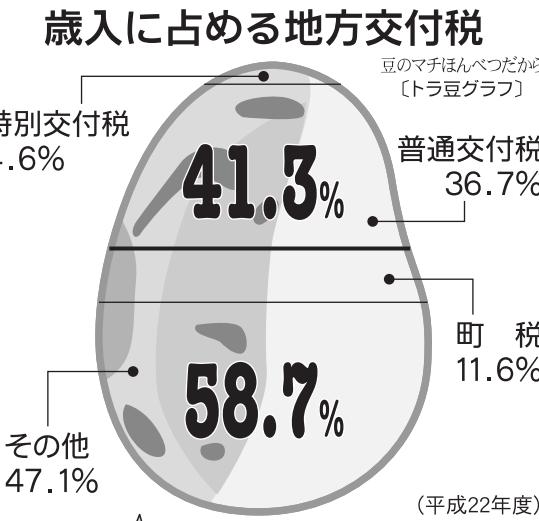
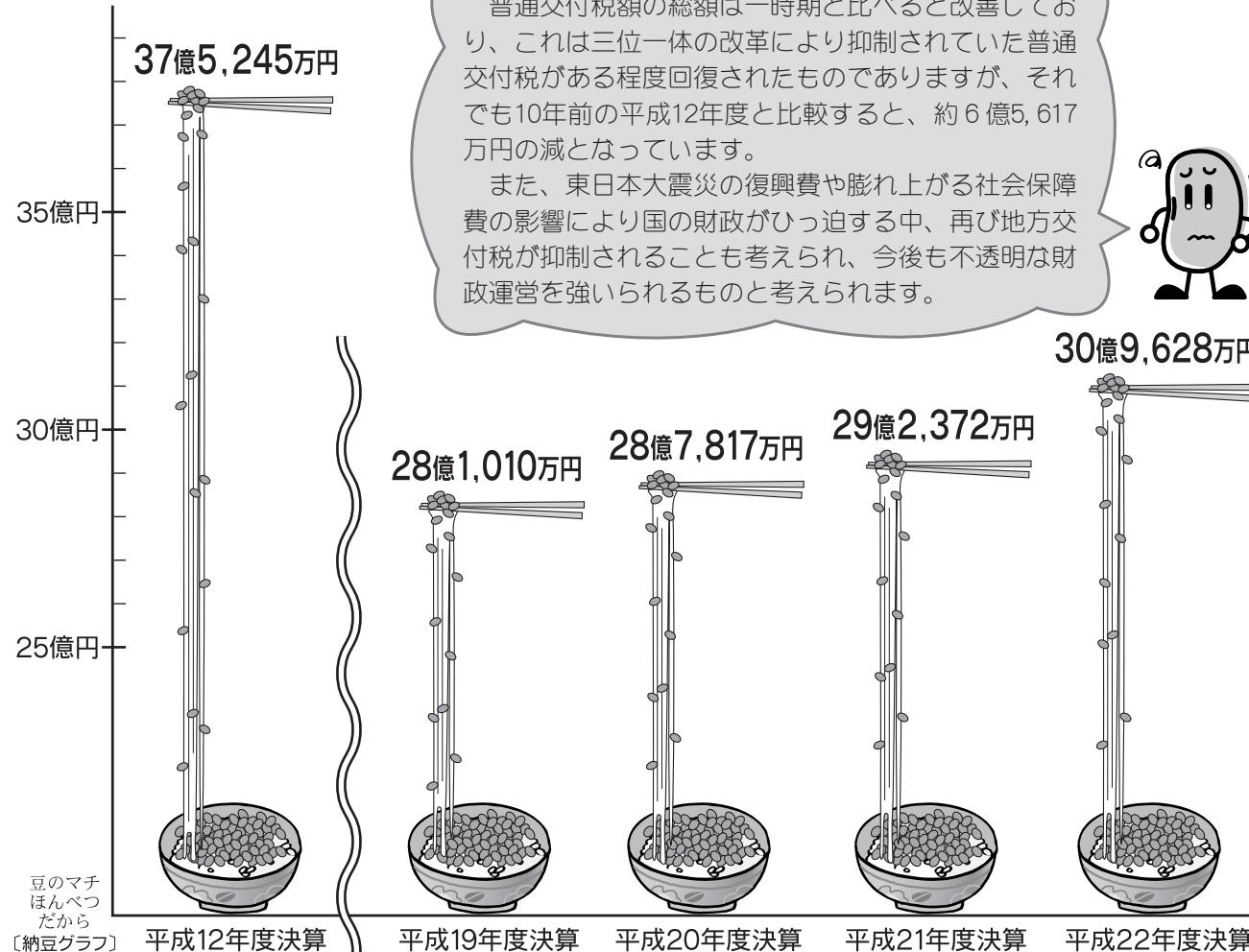
大きなものが普通交付税で、特別交付税は、災害があった時など特殊な事情に対して交付されます。

**国の財政事情や政策が普通交付税に反映**

普通交付税は、国税（所得税・酒税・法人税・消費税・たばこ税）収入の一定割合により交付されますが、景気の落ち込みによる税収不足により、国債の発行など、その他の財源も使って交付されています。従って、国の財政事情や政策が普通交付税交付額に大きく反映されます。

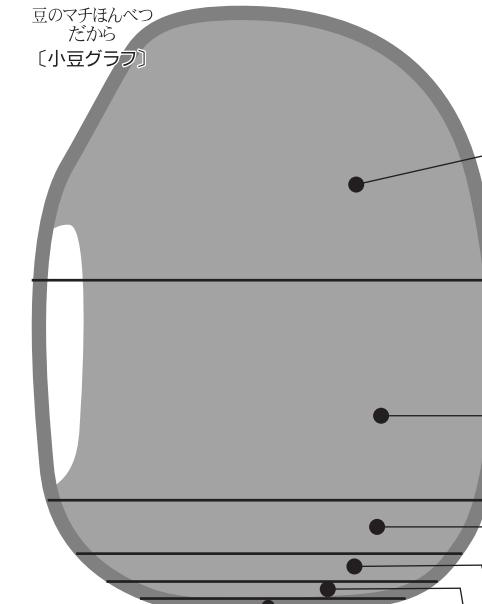
どのように普通交付税が推移してきたかは、下の納豆グラフの通りです。

**普通交付税の推移**



本別町の財政が厳しくなっている  
原因是、この普通交付税が大幅に減額されてきたことによるものです。

# 町税の内訳



**総額 9億7,667万円**

町民1人当たり 11万8,932円

**固定資産税 4億4,047万円**

1人当たり 5万3,637円

土地や家屋、償却資産の所有者にかかる税金です

**町民税(個人) 3億5,667万円**

1人当たり 4万3,433円

収入のある町民の皆さんにかかる税金です

**町民税(法人) 1億199万円**

1人当たり 1万2,419円

町内に事務所・事業所がある会社や団体などにかかる税金です

**6.1% 町たばこ税  
6,002万円**

1人当たり 7,309円

たばこ販売業者が、町内のお店などに売り渡したときにかかる税金です

**0.3% 入湯税  
246万円**

1人当たり 300円

町内の温泉に入浴された人にかかる税金です

**1.5% 軽自動車税  
1,506万円**

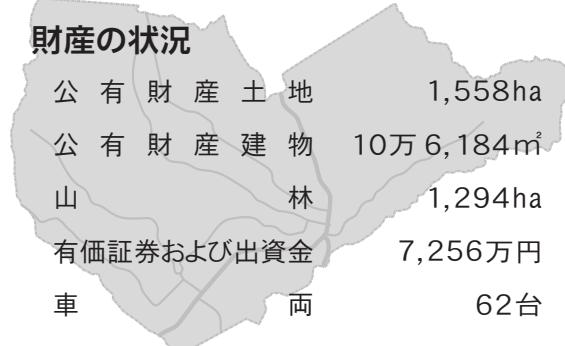
1人当たり 1,834円

50ccバイクや軽自動車、農業用トラクターなどの使用者にかかる税金です

**税金は  
貴重な財源！**

皆さんに納めていただいている税金には町に直接入るものと、国・道に入るものがあります。直接町に入る町税は、収入の11.6%を占めているため、長引く不況の影響で税金の収入が伸び悩むと、町の財政運営も厳しくなるのです。

# 一般会計の財産 および預金等の状況



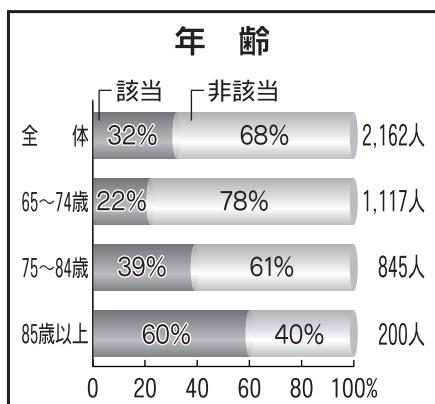
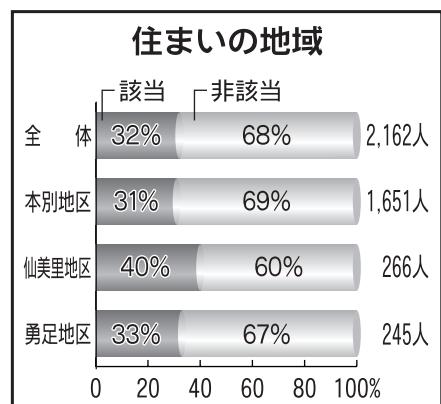
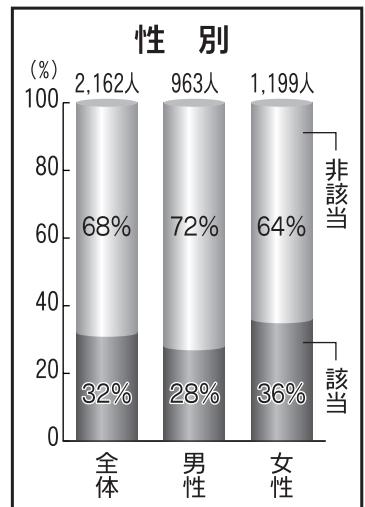
## 預金(基金)等の状況

基金等の種別および目的		平成22年度末現在高	
積立基	財政調整基金	12億7,511万円	
立基	減債基金	5億1,609万円	
立基	福祉の充実	2億2,816万円	
立基	特定目的	産業の振興	8,793万円
立基		教育・文化・スポーツの振興	8,349万円
立基		その他の	7億5,888万円
定額運用基金		土地開発	2億926万円
立基		その他の	7,716万円
立基		合計	32億3,608万円

**町にも預金が  
あるんです**

町も皆さんの家庭と同じように、余裕のあるときには預金を積み立て、大きな事業を行うときにやりくりが苦しくならないようにしています。



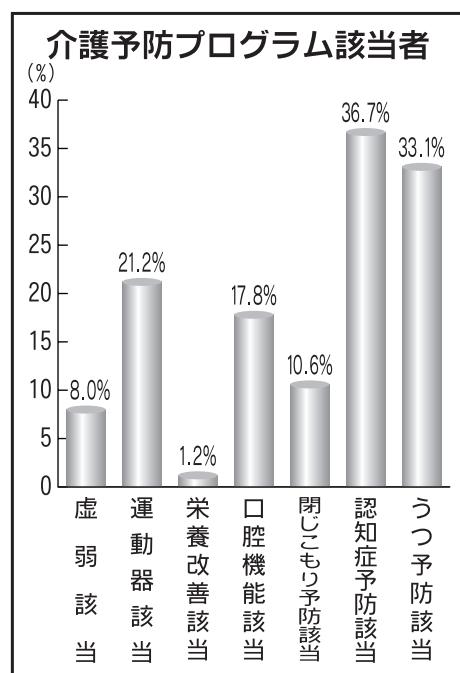


# 高齢者日常生活調査結果報告

## 一般高齢者の32%が2次予防対象者※

## ☆二次予防対象者の 性別、年齢別、 地域別の内訳

「一次予防該当者は全体の32%にのぼり、男女別では「女性」が36%と「男性」より8ポイント高くなっています。年齢別では、「75歳未満」では22%ですが、年齢が上がるにつれ高くなり【85歳以上】は、60%が該当者という結果となりました。地域別では、【仙美里地区】がやや高い傾向にありました。



## ☆2次予防対象者のうち 介護予防プログラム該当者の内訳

二次予防該当者に必要とされる各予防プログラム別では、「認知症予防」が最も高く36・7%で、次いで「うつ予防」が33・1%となりました。また、該当者割合を前年度実施した国のモデル調査結果と比較すると、「うつ予防」以外は該当者割合は低くなっています。

かりました。町では、2次予防対象者への施策として「元気いきいき教室」（本別地区2カ所、仙美里地区1カ所、勇足地区1カ所）それぞれで週1回開催）を開催しています。また、自治会では一般高齢者向けに、認知症予防教室や高齢者サロンに取り組んでいます。介護予防に感心を持たれた人は、一度「地域包括支援センター」（総合ケアセンター内☎22-19222）にご相談ください。

今回の調査結果を受け、2次予防対象者の中でも特に「元気いきいき教室」等への参加が望ましい人については、町や社会福祉協議会の職員が個別に訪問し説明いたします。



住み慣れた「ほんべつ」で  
いつまでも健やかに 自分らしく 安心して生活するために

# 高齢者日常生活圏域ニーズ調査

平成24年度からスタートする第5期銀河福祉タウン計画（平成24年度～平成26年度）を策定するまでの資料とするため、今年の6月から7月にかけて65歳以上の町民2441人を対象に、高齢者実態調査を実施しました。

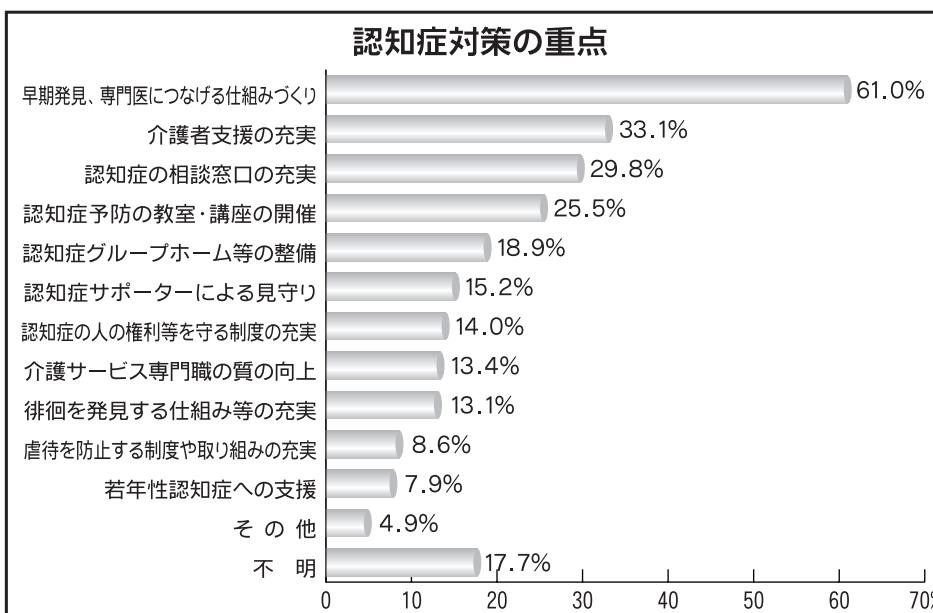
この調査は、地域の課題や必要となるサービスを把握・分析し、高齢者が住み慣れた「ほんべつ」でいつまでも健やかに、自分らしく、安心して生活できるまちを築くためのものです。

この調査は、地域の課題や必要となるサービスを把握・分析し、高齢者が住み慣れた「ほんべつ」でいつまでも健やかに、自分らしく、安心して生活できるまちを築くためのものです。

## 回収率はなんと98・5%

今回は、調査した自宅で生活している65歳以上の全ての高齢者のうち、回答者の約9割を占める一般高齢者（介護認定を受けていない人）の調査結果についてお知らせいたします。一般高齢者に対する調査は、民生委員や自治会のご協力をいたいたい結果、98・5%の回答を得ることができました。この調査結果は個々の高齢者の介護予防にも役立つ内容となつており、回答いただいた人に対して個人ごとに「結果アドバイス表」を送付いたします。

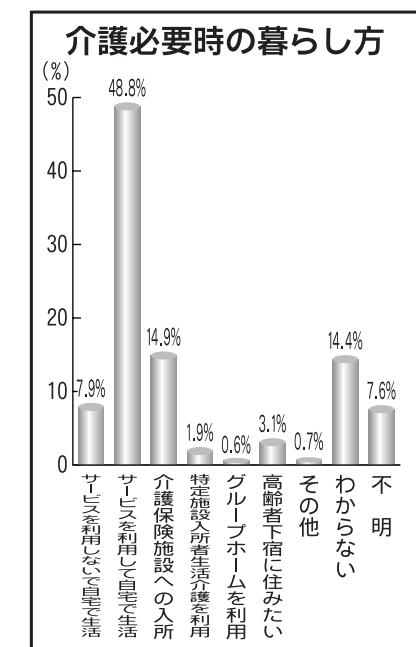
回帰率はなんと99・5%



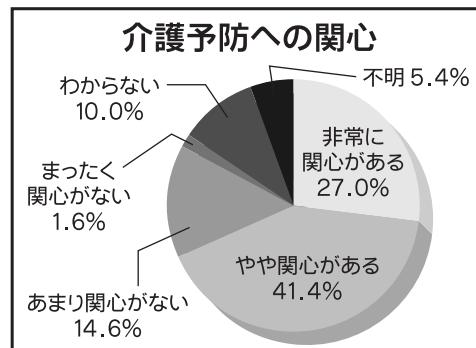
備は18・9%で第5位となりました。※複数回答

## ⑤ 認知症対策について

「認知症対策をさらに充実するため、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか」の問には、第1位が「認知症を早期に発見し、専門医療につなげる仕組みづくり」で61・0%となり、次いで「介護者支援の充実」が33・1%、「認知症の相談窓口の充実」が29・8%となりました。また、「認知症グループホーム・ショートステイ・デイサービス」などの施設整備は18・9%で第5位となりました。※複数回答



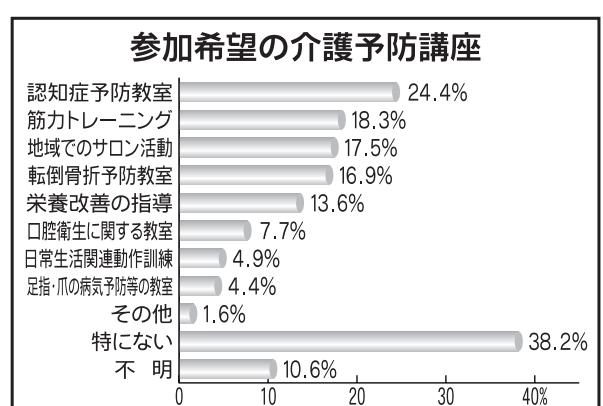
「もし自分が介護を必要な状態になつたらどうのような介護を希望しますか」の問には、48・8%が「サービスを利用するして自宅での生活」を希望するが前回調査同様第1位となり、自宅での生活の7・9%をあわせると56・7%になりました。また、14・9%は「介護保険施設への入所」を希望と回答しました他、「わからない」との回答割合が前回調査と比較すると7・4ポイント高くなりました。



「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせると68・4%になり、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」は16・2%。関心がある人は、ない人の4倍以上となりました。具体的に参加したい講座(※複数回答)については、全体で24・4%の人が「認知症予防教室」に参加を希望。しかし、「特にない」が38・2%を占めるなど、予防についての関心と行動には温度差がみられました。

## ① 介護予防に対する関心

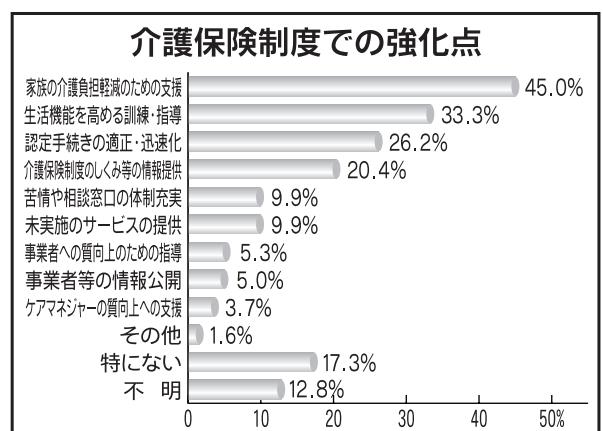
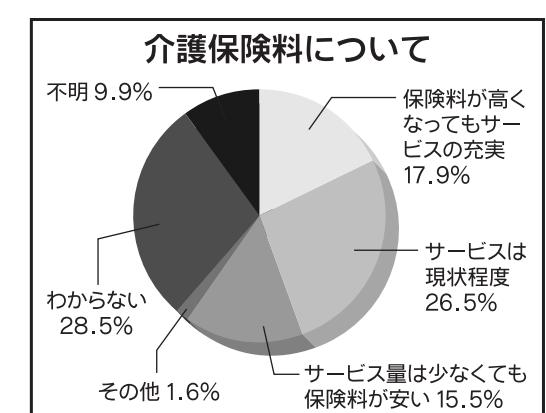
※比率は四捨五入しているため100%にならない場合があります



## ③ 介護保険制度の強化点

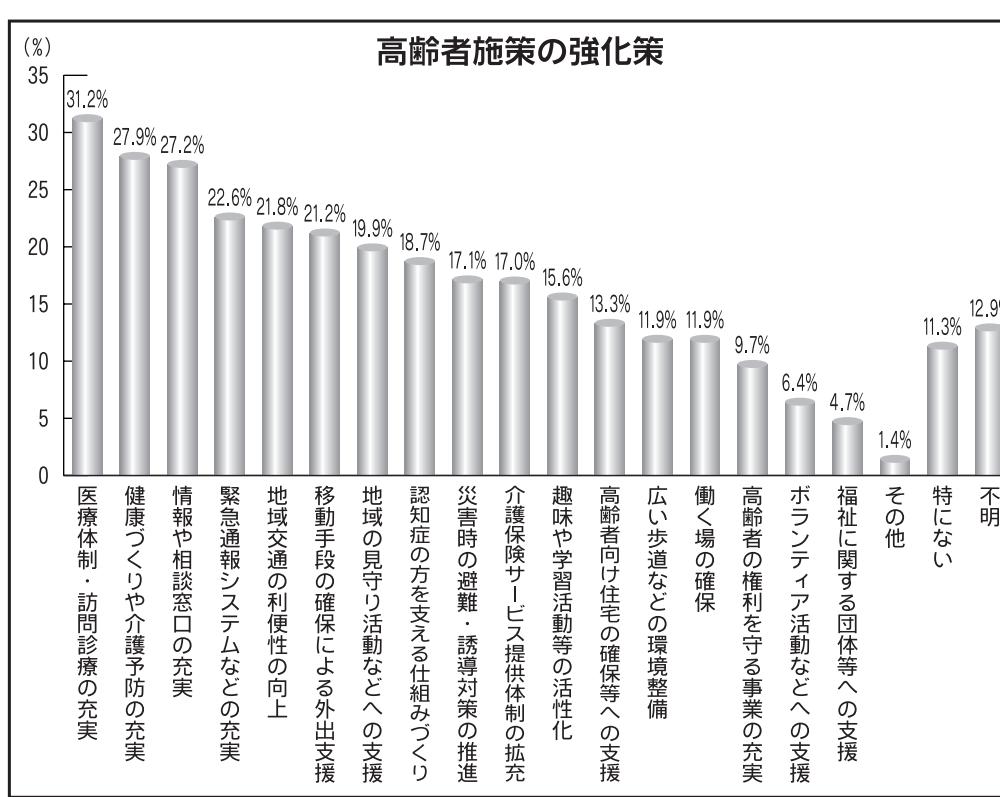
「介護保険制度として、特に力を入れるべきことは何だと思いますか」の問には、「家族の介護負担軽減のための支援」が第1位で45.0%。次いで「生活機能を高める訓練・指導」が33.3%となりました。※複数回答

「高齢者施策として、今後、特に力を入れてほしい施策は何ですか」の問には、第1位が「医療体制・訪問診療の充実」で31・2%、次いで「健康づくりや介護予防の充実」が26・5%でした。前回調査で第1位の「情報や相談窓口の充実」は、今回第3位の結果となりました。※複数回答



## ⑥ 今後必要な高齢者施策について

「高齢者施策として、今後、特に力を入れてほしい施策は何ですか」の問には、第1位が「医療体制・訪問診療の充実」で31・2%、次いで「健康づくりや介護予防の充実」が26・5%でした。前回調査で第1位の「情報や相談窓口の充実」は、今回第3位の結果となりました。※複数回答



## 調査の概要

### ● 調査期間

平成23年6月1日～7月15日

### ● 調査対象

平成23年5月31日現在、本別町に住所を有する65歳以上の人で、①介護認定を受けていない人、②要介護1～2の介護認定を受けている人、③要介護3以上の介護認定を受けている人の3区分2,441人（施設入所者、長期入院、長期不在者を除く）。

### ● 調査方法

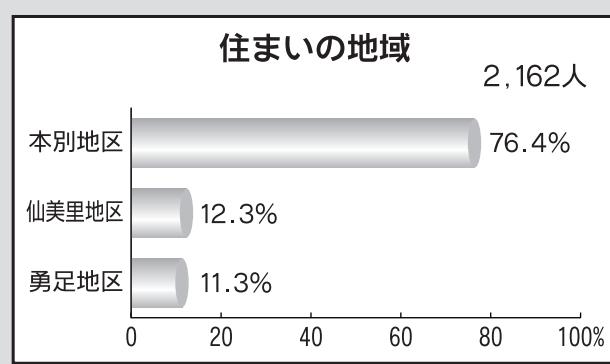
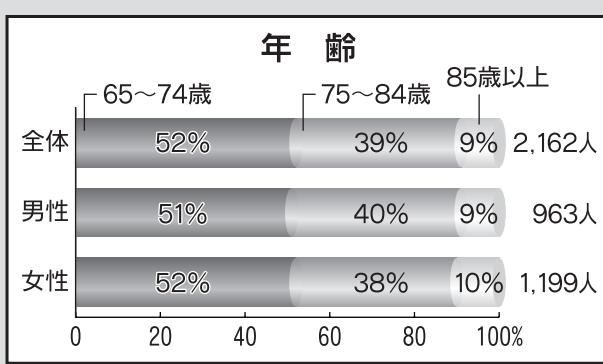
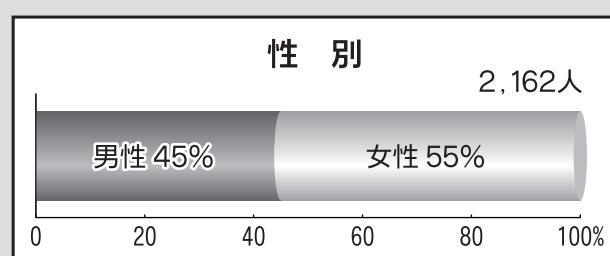
- 【一般高齢者】配布：郵送（一部、自治会・民生委員による配布）  
回収：民生委員による個別訪問（一部、自治会による回収）
- 【介護認定者】配布・回収：ケアマネジャーによる個別訪問（一部、面接聞き取り）

### ● 回収率

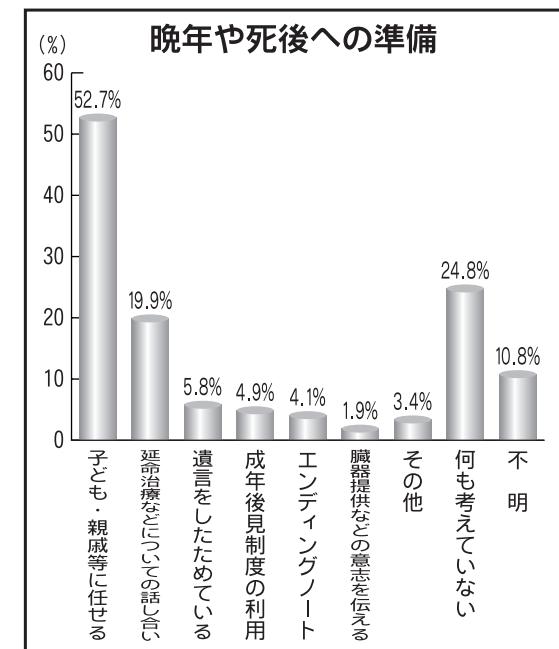
区分	65歳以上 (一般高齢者)	介護認定者 (要介護2以下)	介護認定者 (要介護3以上)	合計
配布数A	2,196	209	36	2,441
回収数	2,162	183	32	2,377
有効回収数B	2,162	183	32	2,377
有効回収率 (B÷A×100)	98.5%	87.6%	88.9%	97.4%

### ● 介護認定を受けていない人の内訳

男性と女性の割合は、「男性」45%、「女性」55%で「女性」が「男性」より10ポイント高くなっています。年齢構成は全体では、「65～74歳」が52%、「75～84歳」が39%、「85歳以上」が9%。地区別にみても年齢構成に大きな違いはありませんでした。地区別では、回答者の76.4%が本別地区に在住の人でした。

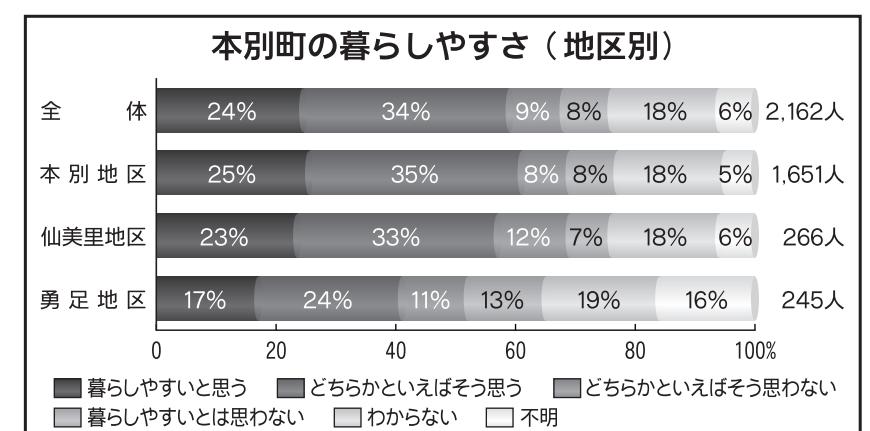


問い合わせ 「調査結果」に関するご質問 総合ケアセンター高齢者福祉担当 ☎22-8520

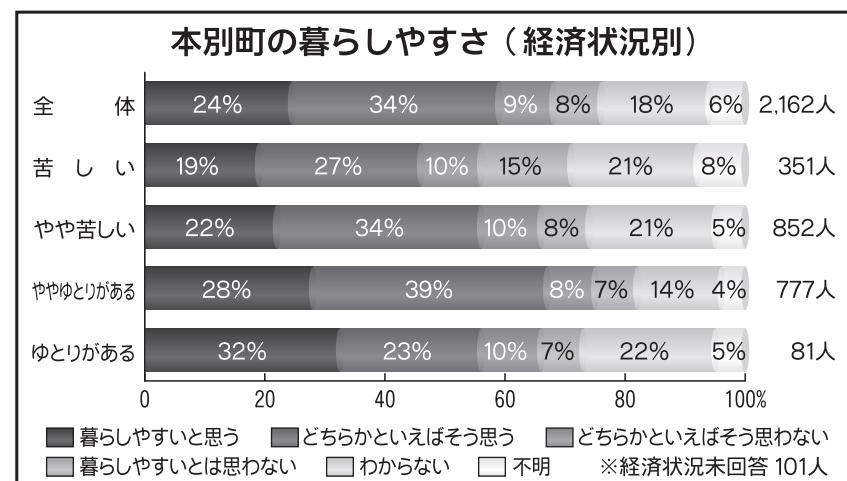


「あなたはご自分の晩年や死後について、考えたり、何か準備をしていますか？」の問いには、半数以上は「子ども・親戚に任せること」しながらも、19.9%は「尊厳死や延命治療について家族と話し合っている」と回答しました。また、「遺言を書いておきたい」と「エンディングノートを書いておきたい」と答えた人は、4.1%で、「成年後見制度や福祉サービスを利用したい」と答えた人は4.9%でした。

※複数回答



暮らしやすいと答えた人は全体の約6割!!しかし、経済状況が苦しい人ほど、まちに対する評価が低くなっています。全体では、「暮らしやすいと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると59%になり、地域別にその割合をみると「本別地区」で60%と最も高くなりました。暮らしの経済状況別にみると、「暮らしやすい」と回答したうち、「ゆとりがある」が32%だったのに、「苦しい」は19%と、生活が苦しい人ほどまちに対する評価が低くなっています。



## ⑦ご自身の晩年への準備について

## ⑧本別町の暮らしやすさ

# 平成23年度 本別町文化奨励賞 授賞式

本別町文化奨励賞授賞式が11月3日、多くの参観者が見守る中、中央公民館で挙行され、丑若理恵さんと大正琴たんぽぽサークル（篠原幸子代表）が文化奨励賞を受賞しました。若木佳則教育委員長が「健康で精進され、すみよい町づくりのため、より一層のご尽力をいただきたい」と式辞を述べ、中野博文教育長から事績の発表後、若木教育委員長から賞状と盾が手渡されました。高橋正夫町長と方川一郎議長の祝辞に続き、受賞者を代表して、丑若さんが「本日の受賞を機に、本別の文化発展のため精進していきたい」と謝辞を述べました。



賞状を受け取る  
大正琴たんぽぽサークルの皆さん



謝辞を述べる丑若さん



ほんべつ学びの日 夢風事業  
平成23年度

# 本別町文化祭

子どもから大人までが、日ごろの文化活動の成果を発表する祭典「本別町文化祭」。11月1日から3日までの3日間、中央公民館を主会場に盛大に開催され、「作品展示」や「芸能発表」などを通じて、多くの皆さんのが学習の花を咲かせました。

文化祭で一番の盛り上がりを見せるのが、11月3日の文化の日。中央公民館では終日、菊花や絵画、陶芸、手芸、華道などの力作約460点が展示されたほか、絵本や紙芝居などを読み聞かせるおはなし広場やお茶会、囲碁・将棋コーナーなどの催しが展開されました。午前10時から文化奨励賞授賞式が執り行われ、午後5時30分からの「芸能発表」には、25団体約140人が出演し、郷土芸能や邦楽、民謡、ダンスなどを披露しました。来場者は、心を込めて作った作品に感心し、芸能発表会の出演者には大きな拍手を送りました。文化祭では、日ごろの研さんの成果を「発表する歓び」、多くの皆さんのが鑑賞し「感動する歓び」などたくさんの歓びが生まれていきました。



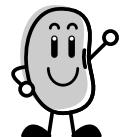
# いきいきほんべつ

いきいきほんべつふれあい祭り



「いきいきほんべつふれあい祭り」（実行委員会主催：田原美枝実行委員長）が11月20日に町体育館で盛大に開催されました。今年も健康、福祉、各団体の発信コーナーや特産品コーナー、バザーなど、本別町の活発な取り組みが一堂に会した会場には、約1,200人が来場し、たくさんの人でぎわいました。

詳しくは  
住民課戸籍年金担当へ  
☎22-8128



IP電話からの専用ダイヤル  
☎03-6700-1130

（平日午前9時～午後5時）

控除証明書についての専用ダイヤル

☎0570-070-1130

（平日午前8時30分～午後5時15分）

※一般電話、携帯電話からご利用いただけます。

控除証明書について詳しく述べる際は、次の専用ダイヤルにお問い合わせください。

※被保険者（ご本人）の代わりに納付義務者（配偶者・世帯主）が納付した場合は、納付義務者が社会保険料控除を受けられます。  
※国民年金保険料について社会保険料の控除の適用を受ける場合には、申告書の提出の際に「社会保険料（国民年金保険料）控除証明書」や「領収証書」など保険料を支払ったことを証明する書類の添付が義務付けられています。  
なお、控除証明書は平成23年11月上旬に日本年金機構より送付されています。

控除証明書について詳しく述べる際は、次の専用ダイヤルにお問い合わせください。

控除証明書についての専用ダイヤル

☎0570-070-1130

（平日午前9時～午後5時）

※一般電話、携帯電話からご利用いただけます。



# 夢風事業

平成19年9月に「ほんべつ学びの日」宣言が制定され、4年が経過した11月12日、「ほんべつ学びの日の活動を通して絆を深めよう！」をテーマに、ほんべつ学びの日の集いが中央公民館で開催され、約150人が来場しました。

啓発セレモニーでは高橋正夫町長と若木佳則教育委員長があいさつし、水谷玲子教育委員が宣言文の朗唱、沼田久枝社会教育委員が四つの風を紹介しスタートしたほんべつ学びの日の集い。学びの日トークでは、写真やフィルムで第27次本別、南三陸ふるさと交流研修会を振り返り、十勝教育局社会教育班氏家博の主査原美枝さん、志戸田康代さんによるディスカッションでは、被災した子供たちの心のキズが少しでも癒えるようにと迎えたこと、交流を通じて笑顔が自然にあふれてきたことなどが報告されました。講演では、金子みすゞ記念館の矢崎節

夫館長が、震災後、東北3県の小中学校全校に金子みすゞさんの詩集や絵本を贈るなど被災地への支援活動について話しました。最後に、本別ジユニアプラスアンサンブルの演奏で、ほんべつ学びの日の集いを閉じました。

また午後からは、同会場において十勝教育を考える集い（十勝管内教育委員会連絡協議会、北海道教育庁十勝教育局主催）が開催され、十勝管内の教育関係者ら約350人が出席。矢崎さんの講演の他、わが町の教育自慢として本別中央小学校6年生6人による「祈風、本別大空襲」の朗読やフィルムフォーラムが実施されました。

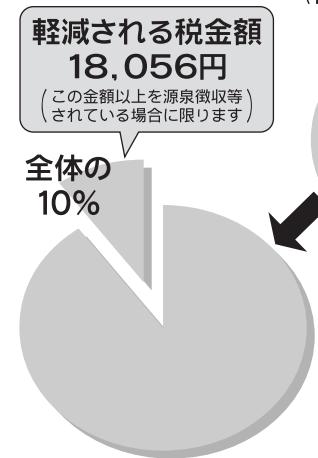
コ  
国  
民  
十  
年  
金  
その16

**国民年金保険料は全額が社会保険料控除の対象となります！**

〈例〉 税率が10%の場合  
国民年金保険料は、全額が所得税・市町村民税等の社会保険料控除となり、税金が安くなります。

1年間の保険料額 180,560円  
(1月～4月納付分 15,100円×4ヶ月)  
(5月～12月納付分 15,020円×8ヶ月)  
を納付した場合

注) 1月～4月納付分  
(12月～3月分保険料)  
5月～12月納付分  
(4月～11月分保険料)



町のに  
別展め  
本発た

# 第1回本別町農産物加工施設 管理運営検討委員会

誰もが使いやすい  
施設に向けて

本別町発展につながる施設であつて  
ほしいと願いが込められ、現在、道の  
駅ステラ★ほんべつ南側に建設中の農  
産物加工施設。来年4月供用開始に向  
けた第1回本別町農産物加工施設管理  
運営検討委員会が11月1日、役場で開  
催されました。高橋正夫町長から関係  
団体より選出された委員9人へ委嘱状  
が手渡され、「この施設を拠点に各分  
野の開発も含め、利用しやすい施設に  
なるよう検討いただきたい」とあい  
さつ。同委員会の要綱説明の後、互選  
により会長に木村隆夫さん、副会長に  
三井玲子さんが選出されました。

事務局から、同施設建設に至るこれ  
までの経過や施設概要、管理運営方法  
および使用料について説明し、同会で  
は今後、施設の運営、管理方法や備品、  
消耗品の決定など、誰もが利用しやす  
い施設に向けて、決定していくことを  
確認しました。

## 本別町農産物加工施設 管理運営検討会委員 (敬称略)

会長	木村 隆夫 (商工会)
副会長	三井 玲子 (JA本別町女性部)
委員	森 住 賢宏 (JA本別町青年部)
	田 原 美枝 (市街地婦人部)
	小 川 瞳子 (商工会女性部)
	河 合 篤史 (NPO法人銀河ほんべつ)
	内 田 勇介 (商工会青年部)
	小 泉 優子 (食生活改善推進委員会)



問い合わせ 企画振興課 商工観光・元気まち担当  
☎ 22-8121

# まちの行方

## シリーズ行政改革 行政改革推進 委員会を開催

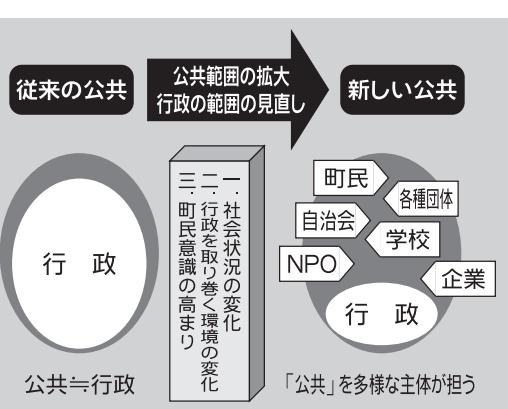
平成23年度第1回行政改革推進委員会が11月17日、役場で開催されました。



第1回会議の様子

本別町行政改革推進 委員会委員会 (敬称略)	
会長	今野公司 (一般公募)
職務代理者	湯山嗣秦 (本別町商工会)
委員	内田基一 (本別町農業協同組合)
	佐藤耕一 (本別町自治会連合会)
	中村秀喜 (連合北海道本別地区連合)
	棚村憲昭 (本別町社会福祉協議会)
	田西昭子 (本別町市街地婦人会)
	沼田久枝 (一般公募)
	前田茂雄 (一般公募)
	内田勇介 (一般公募)

平成23年11月17日  
平成26年11月16日



目指すは新しい公共  
新しい公共とは、これまで「官」  
が支えてきた教育や子育て、防犯  
や防災、医療や福祉などの公共サー  
ビスを、地域のNPO法人や市民  
が積極的に参加できるようにして、  
社会全体として支援することで新  
しい価値観を生み出すもの。まち  
づくりの主役である市民が、行政  
や事業者などの適切な役割分担  
のもとで協働する「新しい公共」  
を積極的に取り組み、健康で文化  
的な活気あふれる快適なまちを創  
造していきます。

著しく変化する社会環境と厳しい財  
政状況の中、新たな行政課題に対応し、  
より質の高い行政サービスを提供し  
ていくため、町長が委員を委嘱し、本  
別町の行政改革をじう進めしていくか調  
査審議する組織です。

本別町行政改革推進委員会とは?

著しく変化する社会環境と厳しい財

政状況の中、新たな行政課題に対応し、  
より質の高い行政サービスを提供し  
ていくため、町長が委員を委嘱し、本  
別町の行政改革をじう進めしていくか調  
査審議する組織です。

「市民自治と新しい公共」をテーマとしたD  
VDを鑑賞後出席者全員で今後のスケジュ  
ルについて確認し任期である3年間のスタート  
を切りました。

※会議結果は、本別町ホームページで公開して  
います。

【本別町公式ホームページアドレス】

<http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/public/policy/gyolaku.html>

問い合わせ  
企画振興課 行政改革担当  
☎ 22-8121

## 人の波運動

10/25

町交通安全推進委員会（会長：高橋正夫町長）による本別町秋の交通安全街頭啓発「人の波運動」が10月25日、町内事業所や自治会などから約300人が参加し開催されました。役場前駐車場で、交通安全集会を行った後、国道242号線沿道に移動し、スピードダウンと書かれた旗を振りながら、通過する車に交通安全を呼び掛けました。



## 受信環境図案コンクール 仙中生2人受賞

10/26



手作り新聞コンクール「どうしん私とぼくの小学生新聞グランプリ」で入賞などをした、本別中央小学校の生徒3人が10月25日、教育委員会を訪れ受賞の報告をしました。このコンクールは、活字に親しみ地域社会への関心を広げることを目的に実施されているもので、応募総数は1万8854点。中野博文教育長は「よく頑張りました。おめでとう」と受賞をたたえました。（敬称略）

ユーモア賞=藤原まなみ（2年）  
佳作=戸叶萌子（2年）  
入選=戸叶次朗（5年）



## 音楽でリフレッシュ！ 10/25

義経教室一般公開講座が10月25日、中央公民館で開催されました。テーマは、「音楽の力で健康に！」。音楽療法士の新津尚美さんが講師となり、38人の参加者は歌や合奏、リズムに合わせて体を動かすなど、心も体もリフレッシュし楽しいひとときを過ごしました。



## 手作り新聞コンクール 中央小児童3人受賞 10/25

手作り新聞コンクール「どうしん私とぼくの小学生新聞グランプリ」で入賞などをした、本別中央小学校の生徒3人が10月25日、教育委員会を訪れ受賞の報告をしました。このコンクールは、活字に親しみ地域社会への関心を広げることを目的に実施されているもので、応募総数は1万8854点。中野博文教育長は「よく頑張りました。おめでとう」と受賞をたたえました。（敬称略）

ユーモア賞=藤原まなみ（2年）  
佳作=戸叶萌子（2年）  
入選=戸叶次朗（5年）



# 本高生 元気はつらつ!! 2011年

本年度は、67人の新入生を迎えて、全校生徒209人でスタートします



**北海道本別高等学校**  
TEL: 0156-22-2052 / 2068  
e-mail: honbetsu@hokkaido-c.ed.jp

**校訓 創意実践**

各学校の手作りページ

**HELLO  
本別高等学校**

## 安心生活創造事業 北海道・東北 ブロック会議

毎年北海道と東北が持ち回りで開催する安心生活創造事業「北海道・東北ブロック会議」が11月7日、同事業に取り組む4道県の9市町から36人が出席し、総合ケアセンターで開催されました。この事業は、一人暮らし世帯等の「見守り」と「買物」を支援するもので、今年で3年目。厚生労働省の地域福祉専門官が、地域福祉を進める諸施策の情報提供をした後、同事業の各市町担当職員や社会福祉協議会職員が、3年間の成果と4年目に向けての取り組みについて報告。続いて活発な意見交換がされました。



## 11月8日は 「いい歯」の日

十勝歯科医師会本別支部（河合篤史支部長）によるいい歯週間in道の駅ステラ★ほんべつが11月8日、「いい歯」の日に合わせて開催されました。会場では、歯科検診のほか口腔内の細菌観察や歯磨き指導などが実施され、22人の来場者は、日ごろの歯磨き方法や歯の健康の大切さについて再確認しました。



## 小川健次郎さんに 叙勲

小川健次郎さん（元町議会議員）が旭日単光章を受章し11月4日、十勝総合振興局由川孝典地域政策部長らが北6丁目の小川さん宅を訪れ、勲記と勲章を伝達しました。小川さんは昭和37年5月に本別町議会議員に当選して以来、通算12年余りの長きにわたり在職され、社会教育や福祉、住みよいまちづくりの向上に尽力されるとともに、高まいな政治信念をもって常に指導的立場で、地方自治の育成発展に大きく貢献されました。



## 勇足中学校で 農業体験

本別町農業協同組合青年部美帶支部（富田貴浩支部長）による農業体験が11月7日、勇足中学校（関根秀実校長、24人）で実施されました。生徒らは、搾乳や牛乳豆腐作り、子牛との触れ合いを体験したほか、参加した青年部員10人とワークショップで意見交流し、農業や食の大切さについて学びました。



## 11月7日

## 11月4日

## 親子で運動

幼児期における生活習慣改善事業「パワフルキッズ講座」親子運動教室が10月29日、町体育館で開催されました。講師のNPO法人健康保養ネットワークの福岡永告子インストラクターは、「運動神経は3歳で60%、6歳で90%決まる。幼児期には、楽しみながら色々な動きをインプットすることが大切」と説明。続いて、参加した26組67人の親子全員で、柔軟体操やバランスをとる運動、ダンスに挑戦しました。



## 10月29日

## 銀河サロン 6周年を祝う

子どもから高齢者までが気軽に集まれる場として毎月開催されている銀河サロンの6周年記念交流会（運営委員会主催）が10月27日、中央公民館で開催されました。三井誠子運営委員長は「あっという間の6年でした。ボランティアや利用者のおかげでここまで続けられたことに心から感謝しています」とあいさつ。高齢者や障がい者の他、本別中央小学校たんぽぽ学級の児童やほんべつつじの園園生など約70人は、ボランティアスタッフが用意した食事やゲームを楽しみながら6周年を祝いました。



## 10月27日

## 道東自動車道開通記念 2011ほんべつ 道の駅秋祭り

道東自動車道夕張-占冠間開通記念「第2回道の駅秋祭り」が10月29日、道の駅ステラ★ほんべつで開催されました。会場では、本別産の新鮮野菜や友好都市徳島県小松島市のすだちやちりめんなどが販売されたほか、黒豆味噌の豚汁やフランクフルトなどの屋台も出店され、たくさんの人でぎわいました。



## 10月30日

## 帯広市本別会觀楓会

帯広市本別会（相澤治会長）恒例の觀楓会パークゴルフ大会が10月30日、幕別町忠類のナウマン公園パークゴルフ場を会場に総勢25人が参加し開催されました。好天に恵まれ、パークゴルフで爽やかな汗を流し楽しんだ後、砂原勝副町長、方川一郎町議会議長、林武町議会副議長、田中敏行JA本別町代表理事組合長らも出席し、温泉ホテルで觀楓会。パークゴルフの結果には歓声が上がり盛り上がった他、会員増強の確認や思い出話、近況報告などの談笑に花を咲かせていました。



ほんべつ

## 本別町使用料等審議会 11|17

町公共施設の使用料や手数料を審議する本別町使用料等審議会（岡崎勉会長、12人）が11月17日、役場で開催されました。審議されたのは、「水道料金および公共下水道使用料」の平成24年度改定について。審議会終了後岡崎会長は、審議された意見を答申書にまとめ高橋正夫町長に手渡しました。町はこの答申を受け、来年4月1日からの実施に向けて事務を取り進めています。



## 交通安全呼び掛ける 11|18

冬の交通安全運動に合わせた北海道警友会本別支部（木田弘支部長）の交通安全キャンペーンが11月18日、北8丁目ふれあい公園で開催されました。参加した会員9人は、道行くドライバーにティッシュと交通安全啓発チラシ100セットを手渡しながら「安全運転をお願いします」などと交通安全を呼び掛けました。



情報を広報電算担当へお寄せください 0222-8121

## 農産物を活かしたものづくりフォーラム さぬきうどんに魅せられて 11|15

農産物ブランドづくり推進事業ものづくりフォーラムが11月15日、道の駅ステラ★ほんべつで開催され、約30人の参加者がものづくりへの心構えを学びました。第1回は、「さぬきうどんブームはいかにして生まれたか」と題して、有限会社おか泉（香川県宇多津町）の岡田文明代表取締役が、これまでの苦労や成功の軌跡を講演。本別のブランド作りについて、「自分の信念を貫くことが大事。ブランド=品質+信頼と安心。この地域でしかできないものを極め、まち全体が一丸となることが、真のブランドになる」とアドバイスしました。最後に、前日のうどん作り教室で作られたうどんが、フォーラム参加者全員に振る舞われました。



## 町内小中学生の 力作ずらり 11|16~23

町学校教育振興会（会長：岩野真志本別中央小学校校長）主催の本別町小・中学校作品展が11月16日から23日の8日間、中央公民館のロビーなどで開催されました。館内には、絵画や書道、工作、手芸などの力作549点がずらりと並び、見る人の目を楽しませました。



## 十勝東北部少年剣道本別大会 11|13



町体育館で開催されました。大会には、音更や幕別など7町から小中学生剣士約200人が出場。選手らは、果敢に相手を攻め込み鋭い打突を繰り出し、技が決まるたびに会場から大きな拍手が沸き起こっていました。成績は次の通り。※本別町分（敬称略）

### 【個人戦】

#### 小学生低学年男子の部

優勝=府川慧哉 第3位=前田蓮平

#### 小学生高学年男子の部

優勝=野崎将秀 準優勝=前田拳心

#### 第3位=高橋昌也

#### 中学生男子の部

準優勝=野崎隼杜 第3位=府川諒祐

第3位=田野正悟

### 【団体戦】

#### 小学生低学年男子の部=準優勝

#### 小学生高学年男子の部=優勝（Aチーム）

#### 中学生男子の部=優勝（Aチーム）

=第3位（Bチーム）

## 新入学に向けて 11|14

来春町内の各小学校に入学予定の66人（男子28人、女子38人）の子供たちが11月14日、町体育館で新入学児童健康診断を受診しました。子供たちは保護者に手を引かれながら、身長・体重の測定、内科・歯科・視力・聴力の検査を元気良く受け、来年4月の入学準備をしました。



## 「清流ハウス8」の 完成祝う 11|9

高齢者向け賃貸住宅「清流ハウス8」（北6丁目）の落成式が11月9日、同ハウスで開催され、関係者など約40人が出席し完成を祝いました。落成式では、本別町社会福祉協議会糸田達一会長が「入居者の視点に立った検討、審議を重ねた。住み慣れた地域で出来る限り長く生活できるように、心豊かで笑顔あふれる、誰もが安心して暮らせる施設を目指します」とあいさつ。続いて、施設の設計・施工者、名称当選者に感謝状が贈られた後、高橋正夫町長と方川一郎議長が祝辞を述べました。1棟8戸を備える同住宅は、併設する小規模多機能型居宅介護事業所「清流の里」のサービスを受けることも可能で、11月10日から入居がスタートしています。



## オール十勝 大収穫市 11|10~15

十勝の農産物や特産品を一堂に集めた第17回オール十勝大収穫市が11月10日から15日までの6日間、帯広市内の百貨店で開催されました。本別町のブースには生豆や納豆、味噌、豆腐などのほか、本別ブランドのキレイマメ商品が並び、終日大勢のお客さんでにぎわいました。



トトロード





# 広報ほんべつ

## 第998号

平成23年12月1日発行  
印刷／本別印刷株式会社

### お誕生

佐々木優介くん 信幸さん 10/18 拓農  
首藤陽生くん 駒裕さん 10/18 新町  
前田珠里ちゃん 茂雄さん 10/21 弥生町

### ご結婚

(川) 村 武 司さん 錦町  
(二) 瓶 利 絵さん 新町

### おくやみ

木下義雄さん 87歳 10/18 栄町  
田中孫守さん 85歳 10/28 栄町  
松本政五郎さん 80歳 10/29 緑町  
高橋宇吉さん 81歳 11/2 栄町  
植松源作さん 80歳 11/9 美里別東中  
土藏キクさん 100歳 11/11 美里別西中  
佐藤千代子さん 92歳 11/12 南4丁目

### わたくしたちのまち

前月比

人口 8,265人(±0)  
男 4,074人(-1)  
女 4,191人(+1)  
世帯数 3,875戸(+2)  
〔10月末日住民基本台帳〕

発行 本別町  
編集 企画振興課  
広報電算担当

# 本のある暮らし

# 本別の宝もの、 子どもたちへ

129

## 矢崎先生一みすゞさんとこだましあって

図書館では、毎年「教科書に載っている先生の出前授業」を行っています。今年は11月11日に中央小学校で、児童文学者・詩人で金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫先生が、町内小学校高学年の児童の皆さんに、金子みすゞの詩と心を直に伝えました。



お話を後の後、子どもたちから先生へ次々と質問が！たくさん学んで、先生をお迎えしたのですね



代表児童のお礼のあいさつもしっかりとでき、矢崎先生からも拍手をいただきました



矢崎節夫先生

「相手がいて、自分がいる。  
みんなの幸せが私の幸せ、  
それがみすゞさんの  
まなざしです」

矢崎先生は優しく丁寧に語りかけ、児童の皆さん、学校の先生方も真剣に聞き入っていました。事前学習に熱心に取り組んできたことが伝わる、すばらしい授業となりました。

また終了後、矢崎先生と小学校の先生方20人による茶話会も開かれ、本別の宝ものである子どもたちも、大人も、みすゞさん的心を通してこだましあっていました。

### お問い合わせ先

## 本別町図書館

(愛称：ぶつくるーお)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112

住所 北海道中川郡本別町  
北2丁目4番地1

電話 0156-22-8121  
(直通)  
FAX 0156-22-3237

ホームページ <http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/>



資源を大切に——

広報ほんべつは、道産間伐材を使用しています。